

「感染者3万人突破」のタイで広がる危機、韓国・香港もコロナ再拡大…日本は本当に大丈夫なのか

5/23 SPOTV news

タイでコロナ感染者急増、1週間で2倍超に

タイで新型コロナウイルス感染者が急増している。

タイ疾病管理局の発表によると、5月11日から17日までの1週間に報告された感染者数は3万3,030人。これは前週（約1万6,000人）と比べ、2倍以上の増加となる。



先週の感染者のうち1,918人が入院を要し、2人が死亡した。地域別では首都バンコクの感染者数が最も多く、6,290人。年齢層では30代の感染者が最多だった。

当局は「状況は管理可能」との姿勢を示しているが、医療界からは懸念の声が高まっている。

チュロンコン大学のティラ・ワラタナラット教授は、「感染者数は11週連続で増加しており、このままでは来週さらに倍増する可能性がある」と警告した。

ソンクラーン祭が感染再拡大の引き金に

専門家たちは、感染拡大のきっかけとして、4月に開催された「ソンクラーン（水かけ祭り）」を挙げている。これはタイ最大級の祝日で、全国各地で大規模な集会と移動が行われる。こうした環境がウイルス拡散を助長したとみられている。

バンコク市当局は対応策として感染対策の強化に乗り出し、ワクチン接種の促進や病床確保を進めている。あわせて市民にはマスク着用と体調異変時の迅速な検査を呼びかけている。

中国・香港・シンガポールでも再拡大

コロナの再拡大はタイにとどまらず、中国本土や香港、シンガポールといった中華圏や周辺国にも広がっている。背景にはワクチン接種率の低下や、旅行・ビジネス往来の増加があるとされる。

香港では過去4週間に30人が新型コロナで死亡。成人重症患者は81人に上り、そのうち約40%が命を落とした。



同期間の陽性率は4月6日～12日の6.21%から、5月4日～10日には13.66%まで上昇し、過去1年で最も高い水準となった。

シンガポールでも感染者数が増加し、政府は約1年ぶりに患者数の定期集計を再開。直近の1週間では感染者が1万4,200人に達し、前週比で28%の増加となった。

一方、韓国では現在のところ、感染の急拡大は見られていない。韓国疾病管理庁によると、急性呼吸器感染症の原因ウイルスとしての新型コロナ検出率は、16週目の7.7%からその後6.9%、4.2%、2.8%と下落を続けており、4週平均の検出率は5.8%と、過去3年で最も低い水準を記録している。

とはいえ、海外で再び感染が広がっている今、日本でも油断は禁物だ。大型連休明けや夏のイベントシーズンを控え、感染防止への意識を改めて高める必要がある。